

平成22年12月15日

名張市教育委員会 様

名張市社会教育委員
委員長 斉 藤 健



平成21年度名張市公民館の管理運営評価について

平成22年9月7日開催の名張市社会教育委員会にて依頼のあった標記のことについて、「社会教育委員意見」として次のとおり提出いたします。

社会教育委員意見

各公民館より提出された報告書や自己評価、アンケート、公民館訪問等をもとに評価した施設設置者(名張市)の評価は、概ね妥当であり、管理運営が適正に行われていることを認める。ただし、次の事項について更に改善等の努力をされたい。

○事業内容について

公民館の利用が、高齢者層に集中しているように感じられるので、幅広い年代層の利用を促すような事業内容を工夫されたい。そして、参加人数の多少のみにこだわるのではなく、内容自体を充実させていくことが必要である。

○学校との連携について

幅広い年代層の利用を促す方策のひとつとして、学校との連携も推進されたい。

○地域づくり組織との連携について

各公民館とも「事務量が増大している」とある。従来の公民館業務に加え、少ない人数で地域づくり関係の事務も一手に引き受けており、それが大きな負担になっていると推察される。更に「コミュニティセンター」という考え方も出てきている中で、現場では様々な葛藤が生じているようである。これらを解消するために、まずは市の担当部署が分かれている中での縦割り行政の弊害を解消し、市として今後の公民館の方向性を示していく必要がある。

○ホームページの活用について

ホームページを活用していない館が見受けられる。情報伝達の手段として、同じ地域内では公民館だよりや利用者の口コミも有効だが、地域間や市外も考慮した場合は、やはりホームページも有効な手段といえる。ただし、作成や更新にはスキルが必要であり、また業務の片手間で出来るものでもない。有効活用を考えるのであれば、人材の養成等、教育委員会が支援策を講じるべきである。



○職員研修について

公民館職員への研修は、各館の自主性に任せるだけではなく、教育委員会として積極的に研修を企画し、実施すること。

○自己評価表について

自己評価表の評価方法「不十分 1、普通 2、十分 3」について、評価も 3 年目を迎え、当初「1」や「2」が多かった項目も改善され、「3」が多数を占めるようになっている。そうすると各館の差異や特徴が掴みにくいので、区分を 4 段階程度に分ける等の見直しを検討する必要がある。また、設問によっては答えの表現がそぐわないので、的確な表現に改めること。

○アンケートの実施について

公民館によって回答数（母数）に差がある。回答数が少ないと信憑性が薄くなるので、実態に即した結果を得るには、ある程度の回答数を確保する必要がある。そのためには、現場の職員の対応が大切なので、教育委員会は各館に対し統一性のある実施方法を指導し、職員に周知徹底するとともに、目標設定等の工夫も必要である。また、項目内容については精査、検討することが大切である。

アンケート結果について、各項目や自由意見欄の内容、特に不満足部分については真摯に受け止め、改善につなげるよう努力をお願いしたい。

以上